



## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月7日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社新日本科学  
コード番号 2395 URL <http://www.snbl.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 永田 良一  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 二反田 真二 TEL 03 (5565) 6216  
四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	10,071	△17.7	1,577	361.2	2,142	111.0	1,605	2.6
2019年3月期第3四半期	12,232	6.4	341	—	1,015	—	1,565	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 △10,815百万円 (—) 2019年3月期第3四半期 5,265百万円 (423.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	38.56	—
2019年3月期第3四半期	37.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	39,292	17,467	44.2	417.42
2019年3月期	54,329	28,477	52.3	682.38

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 17,378百万円 2019年3月期 28,408百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,468	△7.6	2,200	165.1	3,000	85.9	2,100	7.7	50.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	41,632,400株	2019年3月期	41,632,400株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	308株	2019年3月期	308株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	41,632,092株	2019年3月期3Q	41,632,092株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界は、国内外において研究開発のスピードアップと効率化を目指したアウトソーシングが堅調です。このような顧客動向を受け、弊社は顧客から選ばれ続けるパートナーとなるべく、顧客ニーズを満たす迅速な対応とサービスの深化ならびに継続的な質の向上に注力しております。

こうした状況の中、当第3四半期連結累計期間における売上高は、米国前臨床事業及びSMO事業を譲渡したことにより、10,071百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて2,161百万円(17.7%)の減少となりましたが、事業譲渡による影響を除くと1,448百万円(16.8%)の増加となっております。

営業利益は1,577百万円と、前第3四半期連結累計期間に比べて1,235百万円(361.2%)の増加、経常利益は2,142百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて1,127百万円(111.0%)の増加となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,605百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて40百万円(2.6%)の増加となりました。

当社グループのセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① 前臨床事業

顧客満足度をさらに高めることに注力し、信頼と品質で選ばれる前臨床受託研究機関(CRO)を目指すとともに、再生医療開発支援等、新しい技術分野における受託サービスを強化しております。また、大手製薬企業からの包括的受託契約も獲得し、2019年4月から業務を開始しております。豊富な受注残高を背景に稼働状況は堅調であり、内部業務プロセスの継続的な見直しと経費節減を合わせ、利益率が改善しております。

そうした中で、売上高は、米国前臨床事業を譲渡したことにより8,947百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて1,732百万円(16.2%)の減少となりましたが、営業利益は、1,981百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて1,250百万円(171.1%)の増加となりました。

② 臨床事業

SMO事業譲渡によりグループ内の業務の集約を図る一方、当社子会社の株式会社CLINICAL STUDY SUPPORT(名古屋市;CSS社)を中心に臨床研究全般を幅広く支援するクリニカルリサーチ事業を推進しており、米国の臨床CROであるPharmaceutical Product Development LLC(米国ノースカロライナ州;PPD社)のグループ会社であるEvidera社とのパートナーシップ契約に基づくグローバル展開を行うなど、リアルワールドデータを活用したクリニカルリサーチ事業の強化を図っております。加えて、臨床事業におけるPPD社との合弁会社、株式会社新日本科学PPD(持分法適用会社)では、グローバル治験(国際共同治験)に対応すべく盤石な組織体制の構築を進めております。

そうした中で、売上高は、520百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて455百万円(46.7%)の減少となり、営業利益は44百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて0百万円(1.8%)の減少となりました。なお、持分法適用会社の利益は、経常利益として計上しております。

③ トランスレーショナルリサーチ事業(TR事業)

経鼻投与基盤技術(Nasal Delivery System: NDS)を応用した従来型の薬物吸収フィージビリティ試験や自社での製剤研究結果に基づいて、新規事業化を進めており、候補化合物を選定しております。併せて、安価で的確な鼻内部位への送達を実現すべく、新規デバイスの開発も進んでいます。また、NDSを応用した経鼻偏頭痛薬の開発会社の一つとして、当社が米国に設立したSatsuma Pharmaceuticals, Inc.(カリフォルニア州;Satsuma社)は、第I相臨床試験で良好な結果を得て、2019年9月には米国ナスダック市場に上場し、現在、第III相臨床試験が順調に進行中です。

また、NDSを用いた従来型の薬物吸収フィージビリティ試験や自社での製剤研究結果に基づいて、新規事業化を企画中で、候補化合物を選定しております。

一方、NDSを応用した鼻から脳へと薬物を送達させる技術(Nose-to-Brain送達技術)が進展中です。本技術研究では、薬物を能動的に中枢神経細胞へ移行させるメカニズムを解析しております。現在、薬物の脳移行イメージングを解析しており、併せて大手製薬企業との共同研究も順調に進んでおります。

そうした中で、売上高は0百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて7百万円の減少となり、営業損失は305百万円（前第3四半期連結累計期間：営業損失210百万円）となりました。

④ メディポリス事業

環境に配慮する社会的事業として地熱発電事業、自然と健康をテーマにした指宿ベイヒルズHOTEL&SPAの運営などを行っております。発電事業は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用しており、地球温暖化防止、純国産エネルギーの創出推進という我が国のエネルギー政策をうけて、1,500kw級のバイナリー型地熱発電所を稼働しております。ホテル事業は、丘の上から桜島と錦江湾、その背後の大隅半島を一望できる素晴らしい眺望と豊富な温泉を利用した露天風呂や砂蒸し風呂、森の中の個室風呂などの各種スパ施設のほか、鉄板焼き“道（みち）”やフレンチレストラン“セレステ”が好評です。

そうした中で、売上高782百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて43百万円（5.9%）の増加となり、営業利益は20百万円（前第3四半期連結累計期間：営業損失199百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産、負債、純資産の状況に関する分析）

当第3四半期連結累計期間における前連結会計年度末からの財政状態の変動は、以下のとおりとなりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、固定資産の投資有価証券の時価評価額が減少したことなどにより前連結会計年度末に比べ15,036百万円（27.7%）減少し、39,292百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ694百万円（6.0%）減少して10,971百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ14,341百万円（33.6%）減少して28,320百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,026百万円（15.6%）減少し、21,825百万円となりました。流動負債は、短期借入金が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ5,235百万円（29.5%）減少して12,532百万円となりました。固定負債は、繰延税金負債が減少し、長期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1,209百万円（15.0%）増加して9,292百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,605百万円計上し、上述のとおり投資有価証券の時価評価額が減少したこと、その他有価証券評価差額金が12,170百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ11,010百万円（38.7%）減少し、17,467百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前臨床事業は、中長期的な視点で国内外の顧客からの要望に対して、確実に応えられる体制構築に取り組んでおります。再生医療分野における最新装置を導入しており、他施設では実施困難な案件を受託できております。また、2019年4月には、大手製薬企業から創薬プロセスの一部業務の包括契約の受託に成功しました。今後も効率的かつ効果的に各種実験を適切なタイミングで行えるオンリーワンの事業価値を継続して提供してまいります。

海外顧客からの引き合いが活発に推移しており、グローバルな大手製薬企業から継続的な受注に成功しております。この20年間、米国前臨床事業運営で培ったノウハウと米国での勤務経験を積んだ人材資産を活用して、海外顧客からの受託拡大に注力しております。

臨床事業は、PPD社との合弁会社である株式会社新日本科学PPDを通じ、国内におけるグローバル治験を主体に受託サービスの拡充を積極的に展開しております。加えて、当社子会社のCSS社を中心に臨床研究全般を幅広く支援するクリニカル リサーチ事業を推進しており、特にPPD社のグループ会社であるEvidera社とのパートナーシップ契約に基づくグローバル展開を行うなど、リアルワールドデータを活用したクリニカル リサーチ事業の強化を図っております。

TR事業は、当社の独自の経鼻投与基盤技術であるNDSを用いた既存薬剤の投与経路変更による医薬品開発など、パートナー企業とのアライアンス構築を継続して進めており、加えて自社開発を可能にする新規事業スキームが視野に入っております。また、当社とのライセンス契約を基盤に外部資金を活用して米国に設立したSatsuma社が米国ナスダック市場に上場し、その開発品の第Ⅲ相臨床試験が開始され、上市に向けて着実に前進しております。

一方、NDSの新たな応用領域として、Nose-to-Brain送達技術の研究開発に注力しております。中枢疾患におけるアンメットメディカルニーズは非常に高く、その治療薬開発は製薬企業における重点注力領域ともなっています。血液-脳関門（Blood Brain Barrier）の存在により、静脈注射でも脳内に送達できない薬物について、Nose-to-Brain送達技術の応用が期待されています。現在、社内研究に加えて、複数の大手製薬企業との共同研究契約やフィージビリティ試験契約が締結されております。

メディポリス事業は、従来の発電事業に加えて、地熱資源量の把握のための調査事業費補助金制度を利用した新規地熱発電の可能性を検討しております。また、シラスウナギの人工種苗生産は、2017年11月に閉鎖循環システムによる生産に世界で初めて成功しており、今期は大量生産と事業化に向けた展開の一環として、新たに沖永良部島（鹿児島県和泊町）に天然海水を利用した研究施設を稼働させました。

その他、メディポリス指宿の資源を最大限活用すべく、様々な取組みを検討してまいります。

**連結業績予想**

2019年度通期の連結業績見通しは、売上高14,468百万円、営業利益2,200百万円、経常利益3,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,100百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,141,517	4,005,032
受取手形及び売掛金	1,986,807	2,203,902
たな卸資産	3,599,998	4,215,288
その他	1,011,249	616,933
貸倒引当金	△73,145	△69,465
流動資産合計	11,666,428	10,971,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,212,646	7,817,477
土地	2,804,820	2,789,277
その他(純額)	2,669,183	3,130,228
有形固定資産合計	13,686,650	13,736,983
無形固定資産	92,529	198,808
投資その他の資産		
投資有価証券	27,618,673	13,511,243
その他	1,266,847	875,829
貸倒引当金	△2,108	△2,080
投資その他の資産合計	28,883,413	14,384,992
固定資産合計	42,662,593	28,320,784
資産合計	54,329,021	39,292,474

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	36,572	201,889
短期借入金	11,348,192	6,176,549
未払法人税等	69,277	389,658
前受金	4,204,392	4,278,983
事業整理損失引当金	16,465	15,236
その他	2,092,683	1,470,046
流動負債合計	17,767,584	12,532,363
固定負債		
長期借入金	3,894,755	7,909,647
リース債務	708,490	755,110
その他	3,480,371	627,971
固定負債合計	8,083,617	9,292,729
負債合計	25,851,202	21,825,093
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,679,070	9,679,070
資本剰余金	10,362,434	5,196,804
利益剰余金	△10,082,616	△3,433,941
自己株式	△170	△170
株主資本合計	9,958,718	11,441,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,519,614	8,348,925
為替換算調整勘定	△2,069,340	△2,412,550
その他の包括利益累計額合計	18,450,274	5,936,374
非支配株主持分	68,826	89,243
純資産合計	28,477,819	17,467,381
負債純資産合計	54,329,021	39,292,474



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	12,232,315	10,071,077
売上原価	7,668,184	4,828,659
売上総利益	4,564,131	5,242,417
販売費及び一般管理費	4,222,186	3,665,403
営業利益	341,944	1,577,013
営業外収益		
受取利息	13,003	8,009
持分法による投資利益	173,227	456,130
受取賃貸料	38,162	32,441
受取保険金	—	344,695
為替差益	754,322	—
その他	122,114	83,806
営業外収益合計	1,100,830	925,082
営業外費用		
支払利息	268,887	179,928
支払手数料	150,281	10,142
為替差損	—	166,751
その他	8,447	2,926
営業外費用合計	427,615	359,748
経常利益	1,015,158	2,142,348
特別利益		
固定資産売却益	4,321	955
関係会社株式売却益	653,132	—
特別利益合計	657,453	955
特別損失		
固定資産除却損	32,916	7,132
減損損失	1,830	26,193
関係会社株式売却損	231,841	—
その他	—	303
特別損失合計	266,587	33,629
税金等調整前四半期純利益	1,406,024	2,109,673
法人税、住民税及び事業税	29,935	360,979
法人税等調整額	△182,863	50,250
法人税等合計	△152,927	411,230
四半期純利益	1,558,952	1,698,442
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,480	93,001
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,565,433	1,605,441

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
四半期純利益	1,558,952	1,698,442
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,770,779	△12,170,689
為替換算調整勘定	△61,935	△342,807
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,723	—
その他の包括利益合計	3,706,120	△12,513,497
四半期包括利益	5,265,073	△10,815,054
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,271,638	△10,908,458
非支配株主に係る四半期包括利益	△6,565	93,404

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の内容

- (1) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金の全部(10,361,470千円)を減少させ、その他資本剰余金に振り替えました。
- (2) 会社法第452条の規定に基づき、上記資本準備金振替後のその他資本剰余金の一部(5,043,233千円)を繰越利益剰余金に振り替えました。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	前臨床 事業	臨床 事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディポリ ス事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	10,668,855	828,210	8,112	717,325	12,222,504	9,811	12,232,315	-	12,232,315
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	11,370	148,584	200	21,724	181,878	78,342	260,221	△260,221	-
計	10,680,225	976,794	8,312	739,050	12,404,382	88,154	12,492,537	△260,221	12,232,315
セグメント利益 又は損失(△)	731,009	44,989	△210,665	△199,794	365,537	△10,056	355,481	△13,536	341,944

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△13,536千円は、セグメント間取引消去59,178千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△72,715千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	前臨床 事業	臨床 事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディポリ ス事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	8,936,002	333,959	502	756,562	10,027,026	44,051	10,071,077	-	10,071,077
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	11,340	186,894	-	25,997	224,231	70,423	294,654	△294,654	-
計	8,947,342	520,853	502	782,559	10,251,257	114,474	10,365,731	△294,654	10,071,077
セグメント利益 又は損失(△)	1,981,629	44,159	△305,661	20,053	1,740,181	△56,482	1,683,699	△106,685	1,577,013

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△106,685千円は、セグメント間取引消去48,098千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△154,784千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。